

まちづくりの目標と方針

1. 豊かな都心生活と住環境を守り、育てるまちづくり
2. 緑と水辺がつなぐ良質な空間をつくり、活かすまちづくり
3. 都心の風格と景観、界隈の魅力を継承・創出するまちづくり
4. 道路・交通体系と快適な移動がつながるまちづくり
5. 多様性を活かすユニバーサルなまちづくり
6. 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり
7. 高水準の環境・エネルギー対策を進めるまちづくり

▶ 分野の境目のない、創造的なまちづくりの目標イメージ

▶ つながる都心 ヒト・まち・コミュニティがつながる × あらゆる情報でつながる

居心地のよい場所、豊かな生活・交流・活動のスタイルと仲間を見つけられる

- ◇千代田のまちに住むひと、働くひと、様々な目的で訪れ滞在するひと、コミュニティがつながる
- ◇価値観やスキルなど、都心に集まるひとの多様性を背景に、知と行動力、まちの魅力・価値がつながる

▶▶▶ 【方針1】【方針2】



＜つながりを生み、育てる場所・空間・都市機能の例＞

- 緑や水辺、都心の多様なオープンスペースで生まれる「居心地のよい場所」、住まいと職場の間にある「サードプレイス」（朝・ランチタイム・就業後、休日等）
- 多様なひとが気軽に利用できる「シェアする空間」
- シェアハウス等の居住の多様性を広げる住宅

▶ つながる都心 ヒト・まち・コミュニティがつながる × 未来・世界へとつながる

人生 100 年時代に先駆けて、多様性を受入れ、やさしさにあふれたユニバーサルなまちで自分らしく活動的に暮らせる

- ◇子ども、若者、ファミリー、熟年・高齢者など、どのライフステージからでも、まち・コミュニティとつながる
- ◇外国人来訪者を含め、多くのひとが移動しやすい環境が広がる
- ◇心地よい環境の中で人々のライフステージが広がる

▶▶▶ 【方針1】【方針4】【方針5】



＜つながりを生み、育てる場所・空間・都市機能の例＞

- ライフステージ、ライフスタイルに応じた多様な「住まい」
- 多くのひとが行き交う「交通結節点」「公共空間」
- 子どもや高齢者などが安心して過ごせる「居場所」

▶ つながる都心 歴史・文化がつながる × ヒト・まち・コミュニティがつながる × 未来・世界へとつながる

拠点と多彩な界隈が魅力を高めあい、未来へと価値と文化を継承・創造している

- ◇界隈性やものがたりを感じる空間や文化、暮らし、ひとの魅力がつながり、まちの価値にもつながる
- ◇界隈の味わいや奥行きをひとの目線で楽しめる場所と複合的な拠点の高質な空間が広がる
- ◇ひとつひとつの建物の再生と活用がまちを回遊する楽しみの広がりにつながる

▶▶▶ 【方針2】【方針3】



＜つながりを生み、育てる場所・空間・都市機能の例＞

- 開発を通じて生まれる「多彩なオープンスペース」
- まちの文化や風情が息づく「個性ある界隈・路地空間」
- リノベーション等で再生される「個別の建物」「エリア」

▶つなげる都心 歴史・文化がつながる × 未来・世界へとつながる

江戸城の遺構を活かし、都心の快適な環境と首都東京の風格・品格が感じられる

- ◇江戸からのまちの歴史と遺産が顕在化し、活用されて、未来の都心の価値につながる
- ◇歴史的遺構や都心の風格・品格を活かした眺望・景観が高質で居心地よい都市デザインにつながる

▶▶▶【方針2】【方針3】



＜つながりを生み、育てる場所・空間・都市機能の例＞

- 江戸城の遺構（濠・見附跡等）や重厚な歴史的建造物、近代の土木遺構などがつくる「象徴的空間」
- 地形の高低差を巧みに活かした外濠、内濠などの「風景を楽しむ場所」
- 開発のなかで各所に生まれる「眺望空間」

▶つなげる都心 ひと・まち・コミュニティがつながる × 未来・世界へとつながる × あらゆる情報でつながる

ICTが支えるスマートで強靱な社会基盤で、都心のひとと生活、活動が最適な状態に保たれている

- ◇脱炭素社会に向けた環境・エネルギー対策と災害時の適切な対応や自立性・機能継続性の確保の対策がつながる
- ◇都心に滞在し、移動しているひとの行動と都市の様々なサービスがICTで最適につながる

▶▶▶【方針4】【方針6】【方針7】



＜つながりを生み、育てる場所・空間・都市機能の例＞

- 大規模な開発が連坦し、多くのひとが就業・滞在する「拠点エリア」
- 多くのひとが行き交う「交通結節点」「公共空間」
- 面的な開発による高度な「都市基盤」
- シェアリングエコノミーなど都心生活を支え、ひと、まちをつなぐ「社会システム」

▶つなげる都心 未来・世界へとつながる × あらゆる情報でつながる

地方や世界から選ばれる都心のグローバルな価値を生み、一歩先の未来を発信しつづけている

- ◇技術革新を活かすフロントランナーとしての新しいチャレンジが次世代の都心の価値向上につながる
- ◇世界水準のビジネス交流や来訪者の滞在が都心のさらなる複合的な魅力の創造につながる
- ◇地方固有の文化・産物と都心の多様なポテンシャルが融合し、新しい交流と文化創造につながる

▶▶▶【第5章 都市マネジメントの方針】



＜つながりを生み、育てる場所・空間・都市機能の例＞

- 時代を先取りした技術の実証実験やまちへの実装にむけて「チャレンジし、発信する空間」
- 国際的な競争力が高まる「ビジネス交流空間」
- 都心のポテンシャルを活かす多様な「公共的空間」

● 方針 1 ●

豊かな都心生活と住環境をまもり、育てるまちづくり

未来へのまなざし

次世代の魅力ある「都心生活」

定住人口や住宅など、都心居住の量的な回復基調のなかで、
職場への近接性や交通などの利便性だけでなく、
都心ならではの質の高い居住のスタイル、住み続けられる環境と、
その魅力・価値を一層高め、持続させていくための環境づくりを展開していきます。



日常生活や子育てのしやすさ

都心の豊かな緑と水辺に彩られた居住環境

人生 100 年時代のライフサイクルに応じて住み続けられる環境

世界水準の高質な都心居住の環境

また、居住の側面だけでなく、
国家中枢機能や国際ビジネス交流、文化・芸術、教育、学術・研究などの
高度な機能集積のなかで、多様なひとと“知”“創造的な力”が都心に集まり、
さまざまなスタイルで働き、交流し、活動する都心生活の魅力を高めていきます。



自分らしいスタイルで、

都心の生活時間を豊かに過ごせる多彩な“居場所”

多様な人が集い、出会い、価値観が交わり、

創造的なビジネスや活動、文化が生まれる場所・機会

こうした多面的な“都心生活”の魅力や面白さが生まれ、
まち、人のつながりが深まっていくなかで、
新たにビジネスを始めるひと、
江戸からのまちの文脈やつながりを感じながら、文化や新しい価値を生み出し、発信するひと、
そうした熟成された魅力・価値に惹かれて訪れるひと、滞在するひと、
住居を構え住み続ける人が増えていき、
従来から地域を支えている町会などのコミュニティの力に加えて、
新しい時代の創造的な力が活かされていく持続的なまちを目指します。

▶ 住宅・住環境整備の概況とこれからの視点・論点（課題）

これまでのまちづくりで目指してきたこと（従来の目標）と主な取組み・成果をふりかえり、これからのまちづくりの視点・論点をふまえ、主要課題を以下のようにとらえています。

● 従来の目標 ●

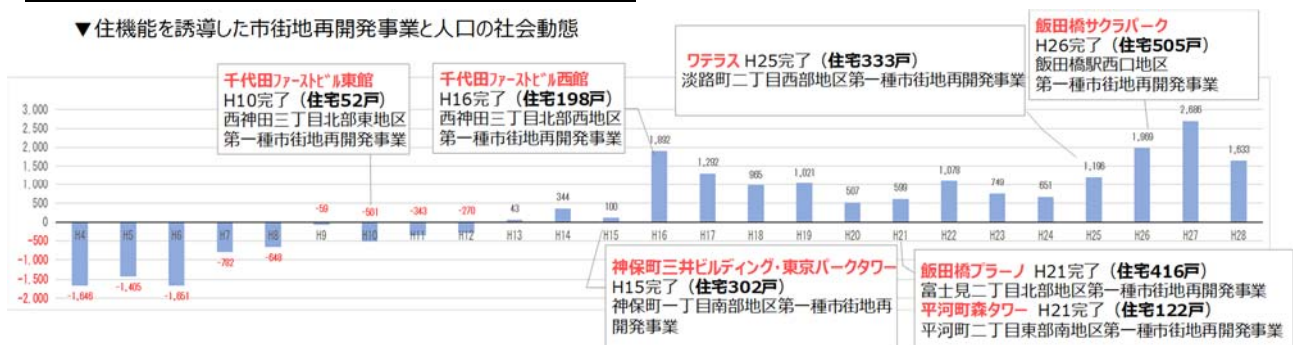
多様な人が住む、心ふれあうまちに

- 子ども、高齢者、障害者や単身世帯・ファミリー世帯など多様な人々からなるバランスのとれた地域社会を形成する
- それぞれのライフスタイルや家族構成にあった良質な住宅を増やすとともに、環境に配慮した住宅を確保していく
- うるおい、快適性、利便性、安全性、環境などに一層配慮しつつ、都心生活をもっと楽しめるよう、文化や人とのふれあいの場、心を豊かにする場を充実させる

● まちづくりの主な取組み・成果 ●

- (1) ファミリー世帯向け住宅を中心に住機能を立体的に誘導する施策を展開（市街地再開発事業、共同化、住宅付置・開発協力金制度）
- (2) 地区計画のきめ細かい決定・運用による居住環境の維持や住宅床の誘導
- (3) 住宅基本計画の改定に伴い、住宅の量の確保から「住環境の整備」「多様な住まい方の推進」への転換（住環境整備推進制度）
- (4) 高齢者向け住宅やグループホームなど高齢者や障害者のための住宅の増加

▼住機能を誘導した市街地再開発事業と人口の社会動態



従来の目標・取組みをベースに、未来に向けて進化するまちづくり

● これからのまちづくりの視点・論点 ●

次世代の魅力ある「都心生活」

人口回復と高齢化に伴う新たな課題
子育て世帯、高齢者・障がい者の生活支援機能

住宅・住環境の課題
住宅の低炭素化・スマート化
マンション適正管理・耐震化

都心生活の多様性
多様な住まい方 リノベーション
シェアリング コワーキング

新しいスタイルのコミュニティ
様々なスタイルでのつながり
シビックプライドを感じるまち

【主要課題】

- ◇人口増加、特にファミリー世帯の増加、高齢化に対応した高質な居住環境の充実
- ◇都心の資産、文化、ポテンシャルを活かした創造的な都心生活の場の創出とコミュニティの力の醸成

▶ まちづくりの目標

これからのまちづくりの視点・論点・主要課題をふまえて、「**豊かな都心生活と住環境をまもり、育てるまちづくり**」の目標を以下のように定めます。

目 標

**都心生活の多面的な魅力の向上、
多様なスタイルでつながるまちとひとが
持続的・創造的なコミュニティを育てていく**

(作図中)
まちづくりのイメージ図

区全体の将来像 の展開イメージ	『つながる都心』 × 豊かな都心生活と住環境をまもり、育てるまちづくり
歴史・文化 がつながる	◇番町や神田の下町など、まちの個性ある界隈のなかで育まれてきた良好な住環境や文化を大切にしながら、住み続けられる環境が維持されている
ひと・まち・コミュニティ がつながる	◇町会などの従来からのコミュニティが地域を支えながら、多様な住まい方や働き方、活動・滞在のスタイルで過ごす人とまちのつながりが深まって、都心生活の新しい魅力や文化、生業を育む力、シビックプライドの源泉となっている
未来・世界 へとつながる	◇ファミリーや高齢者が住み続ける住宅とともに、シェアハウス・シェアオフィス・ワーキングスペースなど、ライフステージやライフスタイル、ワークスタイルに応じて、短期・中期の滞在を含む住む場所、働く場所、ひとと交わり新たな活動を始める場所など、まちに暮らし、働き続けられる多彩な環境が用意されている
あらゆる情報 でつながる	◇まちで暮らし続けられるための住宅・滞在のための情報やコミュニティとのつながりを深める場、活動の情報などで、ひととまち、コミュニティがつながっている

▶ まちづくりの方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

まちづくりの目標を具体化し、効果的に取組みを進めていくため方針を以下のように定めます。

方針 1

多様な人々がライフスタイルに応じて住み続けられる居住機能の誘導

都心生活の新しい魅力を発見しながら、住まい方の多様なスタイル、住み続けられる環境を充実させていきます

- 子ども・高齢者・障害者のだれもが住み続け、ふれあえるまちとするよう、多様な人のための良質な住宅確保が進むよう誘導していきます。
- だれもが心地よく安心して暮らせるよう、太陽の光、風、緑、水辺、街並みを大切にするとともに、日常生活の利便性、安全性を高めていきます。
- ★機能更新期を迎える高経年マンションの増加と居住者の高齢化（いわゆる「二つの老い」）に対応し、安心して暮らせる住まい、都心の環境づくりを進めていきます。
- ★自分らしい都心生活のスタイルや働き方を選択し、まちに住まい続ける魅力を感じる多様な住宅ストックや環境の充実を図ります。（短期・中期滞在、シェアハウス、リバースモーゲージなど）
- ★ライフステージに応じた生活を支援する、子育て・教育、医療・介護、買物環境など、日常生活を支える場や機能を誘導していきます。

方針 2

まち、ひとのつながりが深まる持続的・創造的なコミュニティ形成

都心の多様な生活・活動が融合し、つながる“場”と“コミュニティ”を創造していきます（暮らし、祭、学び、交流、ビジネスなど）

- 区内に集積する図書館、大学、美術館、劇場、文化財や、寺社、祭、個性豊かな街並みなど、多様な場所で、人や文化・芸術とふれあう場、心豊かに、都心生活をより楽しめる場を充実させていきます。
- ★町会など地域に根差したコミュニティとともに、新たに住みはじめる住民、多様なスタイルで働き活動する人、学生・留学生など、まちと人の多様性を活かし、つながり・絆を強めるコミュニティ形成の場を創出していきます。
- ★都心生活を豊かにする公共空間やオープンスペースの整備と活用を進めながら、外出しやすい空間や施設の連続性、公共空間を活かしたコミュニティとひとのつながりを創出していきます。

方針 3

より質の高い都心の居住スタイルと環境の創造

都心生活の環境を豊かにし、進化させる制度・手法を創造的に活用していきます

- ★まちづくりと連携した高質な住宅の誘導とともに、価値を損ねる住宅転用を防止し、住宅系複合市街地の高質な環境を維持していきます。
- ★高経年分譲マンションの適正管理を進めながら、耐震化、周辺住環境の充実などによって質の高い都心居住環境を維持していきます。
- ★多様なライフスタイル・ワークスタイルのひとが集い、くつろぎ、活動するエリアでは、建物の空間や機能と様々なタイプの住宅や、滞在施設、コワーキングスペース等が融合して、思い思いの滞在時間を過ごせる Mixed-Use の複合市街地の形成を誘導していきます。
- ★適切なサイクルでの建替えの推進やストックの価値を持続向上させるリノベーションを進め、新しい世代の魅力ある住宅の創出・多様化を誘導していきます。

▶ **連携の方針**

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

「豊かな都心生活と住環境をまもり、育てるまちづくり」の方針にあわせて、各方針の連携のポイントを明確にし、効果的なまちづくりを進めていきます。

方針 1：豊かな都心生活と住環境をまもり、育てるまちづくり

1. 多様な人々がライフスタイルに応じて住み続けられる居住機能の誘導
2. まち、ひとのつながりが深まる持続的・創造的なコミュニティ形成
3. より質の高い都心の居住スタイルと環境の創造

方針 2：緑と水辺がつながる良質な空間をつくり、活かすまちづくり

都心の豊かな緑や水辺を感じる身近で居心地のよい空間の充実

- 屋上緑化、オープンスペースや緑道の整備（日照・通風等）
- 緑と水辺環境の保全と充実、連続性の確保（守り、つくり、つなげる）
- 建替えの際の身近な緑の整備
- ★都心ならではの歴史的・文化的資源や潤いある自然など魅力的な居住環境の充実
- ★日常生活を楽しめる空間や機能の創出・向上
- ★開発に伴う低炭素まちづくりなどの地域の持続性への貢献の誘導

方針 3：都心の風格と景観、界隈の魅力を創出・継承するまちづくり

まちの固有の味わい、賑わい、文化をつなぐ街並み・市街地環境の継承・進化

- 個性と魅力ある街並みを大切にし、親しまれる住環境づくり

方針 7：快適な都心環境を育てるまちづくり

賢いエネルギー利用に対応した住宅供給の促進

- 住宅の低炭素化・省エネ化・スマート化・エネルギーの自立分散化の推進

分野の境目のない効果的な連携

● 方針 2 ●

緑と水辺がつなぐ良質な空間をつくり、活かすまちづくり

未来へのまなざし

居心地のよい空間の多様性

皇居や内濠、外濠など、江戸城の遺構や日比谷公園、靖国神社等の大規模な公園・緑地を基盤として、都心のアメニティや生物多様性を支える緑と水の骨格を継承し、魅力・価値を高めていきます。



江戸城の史跡とともに継承する眺望
皇居を中心としたクールアイランドと風の道
親しみやすい緑と水辺（散歩道、親水空間）
生物の生息空間のつながり

こうした緑と水辺の骨格を軸として、多様なひとが、それぞれのスタイルで過ごし、居心地のよさや都心生活の豊かさを感じられるような場所をまちのなかで充実させていきます。

そしてエリア全体として、そこで過ごす人々や活動の風景が魅力となるよう、地上を歩くひとの目線の高さで、物理的な空間のつながりや、空間を利用した様々な活動の連携を広げていきます。



江戸からの歴史文化、都心の風格、水とのつながりを感じる空間
（江戸城の史跡、水辺、歴史的建造物、界隈性と文化、坂など）
緑や水辺のうらおい、四季の変化を感じられる空間
界隈の個性を活かした文化的・創造的な活動が行われる空間
ゆったり、安心して、自分らしい時間を過ごす空間
（朝活、ランチ、就業時間後の夜の活動など）

まちのなかの居心地のよい空間を形成するべく、道路や公園・緑地、河川などの公共の空間や、開発等によって生まれる民有の空間などがまちの資産として一体性をもって計画され、効果的につながるよう誘導していきます。

また、こうした空間はつくるだけでなく、空間を利用して展開され活動自体がまちの魅力、価値、文化となるよう、維持管理はもとより、積極的に活用していきます。

▶ 緑と水辺の整備の概況とこれからの視点・論点（課題）

これまでのまちづくりで目指してきたこと（従来の目標）と主な取組み・成果をふりかえり、これからのまちづくりの視点・論点をふまえ、主要課題を以下のようにとらえています。

● 従来の目標 ●

緑と水辺を守り、つくり、つなげ、より身近なものに

○生活にうるおい、やすらぎを与える緑や水辺などの自然の役割を十分活かす

・歩道に木陰をつくる ・ヒートアイランド現象の緩和
・大気の浄化 ・鳥や昆虫の棲める環境づくり
・良好な景観づくり ・防災性の向上
・都市の環境保全

○今あるかけがえのない豊かな緑と水辺を守り、そしてさらに、つくり、つなげることで、より身近で自然に親しみ、安らぎを感じられるまちにしてい

● まちづくりの主な取組み・成果 ●

- (1) 地区計画（緑化率の最低限度等）や「千代田区緑化推進要綱」による緑化指導により、敷地内や屋上への緑化を推進し、緑被面積が増加
- (2) 都市開発諸制度など開発事業にあわせて、官民が連携し、空地と良好な緑、水辺の空間を創出
- (3) 千鳥ヶ淵緑道や大手町川端緑道の整備等により、緑豊かな水辺の歩行者ネットワークを拡大
- (4) 区の花さくら再生事業や道路・公園等のアダプトシステムの促進を通じた緑化推進の普及啓発

(写真)

敷地内の緑化

(写真)

開発事業にあわせた水辺の空間の創出



大手町川端緑道

従来の目標・取組みをベースに、未来に向けて進化するまちづくり

● これからのまちづくりの視点・論点 ●

居心地の良い空間の多様性

エコロジカルな
都市環境
風の道 生態回廊
生物多様性

公共の緑と
水辺の空間
公園・街路樹等
の維持管理

都心生活の
質を高める空間
サードプレイス
プレイスメイキング

グランドレベルの
空間の連続性
外部空間の連続性
民間＋公共の緑

区間活用と
マネジメント
活用される
緑と空間

環境を豊かに
する制度活用
空間の認定・評価
企業貢献

区民等の
緑とのかかわり
維持管理・活用
への参画・合意

【主要課題】

- ◇皇居等の大規模な緑地や身近な緑と水辺と連続性の高い空間の創出
- ◇時代にあった価値を生む多彩な空間（場）の創出と活用、活動の発展

▶ まちづくりの目標

これからのまちづくりの視点・論点・主要課題をふまえて、「**緑と水辺がつなぐ良質な空間をつくり、活かすまちづくり**」の目標を以下のように定めます。

目 標

**皇居を中心とする豊かな緑と水辺の
ネットワークが拡がり、居心地のよい空間で、
多様な生命が息づき、人々が豊かに過ごしている**

(作図中)
まちづくりのイメージ図

区全体の将来像 の展開イメージ	『つながる都心』 × 緑と水辺がつなぐ良質な空間をつくり、活かすまちづくり
歴史・文化 がつながる	◇江戸城の遺構が形づくる緑と水の骨格が都心の豊かな環境創造軸を形成し、様々な生き物の多様性、過ごしやすさをもたらす生態回廊回廊を形成している
ひと・まち・コミュニティ がつながる	◇都心の骨格となる緑・水辺とまちの連続性を高めるように、居心地の良い空間がまちなかでつながりを持ちながら点在している。(道路・公園などの公共空間、駅とまちをつなぐ地上・地下の空間、建物周囲の公開性の高い空間や低層部の屋内スペース、屋上の眺望の良いテラス等) ◇様々な場所に多彩な空間が広がり、自宅・職場に加えて、朝、ランチタイム、就業後(夜間)など、豊かな都心生活の時間を過ごす「第3の場所」(サードプレイス)として、デザインされ、活用されている
未来・世界 へとつながる	◇まちなかの空間の維持管理や活用する多種多様な活動により、都心・千代田の魅力・文化を醸成し、発信され、その経験の蓄積によって、より居心地がよく、価値の高い空間として進化している
あらゆる情報 でつながる	◇まちなかの多彩な空間のための情報が蓄積され、適正で効率的な維持管理や創造的な空間活用のためのマネジメントに活かされている

▶ まちづくりの方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

まちづくりの目標を具体化し、効果的に取組みを進めていくため方針を以下のように定めます。

方針 1

江戸城の遺構を骨格とした緑と水辺の継承と充実

緑と水辺の心地よさが際立ち、安らぎを感じる都心環境を形成していきます

- 皇居を中心としたまとまった緑、内濠・外濠の桜並木や土手の緑など、今あるかけがえのない豊かな緑と水辺の環境を保全していきます。
- ★江戸から継承する緑と水辺の遺構を顕在化・再生し、都心・千代田の歴史と風格を感じながら、居心地よく過ごせる空間や親水性の高い空間をデザインし、つなげ、広げていきます。
- ★皇居や内濠・外濠、神田川、日本橋川を核として、放射・放射の幹線道路と一体となって、質の高い緑と水辺空間とつながる心地よい環境をまちなかに広げる環境創造軸の形成を進めます。
(皇居から展開する生物多様性／風の通る道、ヒートアイランド現象緩和などによる快適な都市環境形成／内濠・外濠、日本橋川、神田川等の水質の浄化)
- 民有地の樹林・樹木や生垣などの身近な緑を保全し、建築・開発の誘導を通じて、内濠・外濠、神田川、日本橋川の水辺とつながり、まちなかに心地よい風やうるおいをもたらす、自然に親しみ安らげる空間を充実させていきます。

方針 2

都心生活の価値を高める多彩な空間の創出・再生（デザイン）と創造的活用

オープンスペースからまちづくりを考え、ひとの目線で多彩な空間^(※)の質と機能、連続性を強めていきます

※緑地・公園と水辺、道路沿いや建物周囲の空地、屋上・テラスの空間など

- ★既存の公園・緑地、街路樹など、公共の緑の効果的な維持管理と再生を進めます。
- ★大規模開発等で創出する空地や緑や水辺の空間は、周辺の空地や道路や公園・緑地等の公共空間や公共施設との連続性・一体性を強め、まちひと、豊かな都心生活がつながっていくようデザイン・創出されるよう誘導していきます。
 - ・こども、高齢者、外国人来訪者などが安心してくつろげる空間
 - ・ひとが歩くグランドレベルでうるおいを感じ、居心地や使い勝手が良く、地域のひとに愛される空間（建物周囲）・プレイス（建物低層部）
 - ・うるおいの厚みを感じる立体的な緑、開放感や快適性を感じる空間
 - ・皇居や内濠・外濠、東京駅などの象徴的景観などを活かして、都心ならではのくつろぎの時間を過ごしながら、ゆったりと眺望を楽しめる空間
 - ・都心ならではの魅力あるアクティビティを誘発し、職場と自宅の間で、日常の都心生活を豊かにする居心地の良い場所（サードプレイス、朝や夜間の賑わいと交流空間）
 - ・健康のためのランニングやウォーキング、スポーツ、ペットの散歩など、多様な目的・スタイルで訪れるひとが共生する空間

方針 3

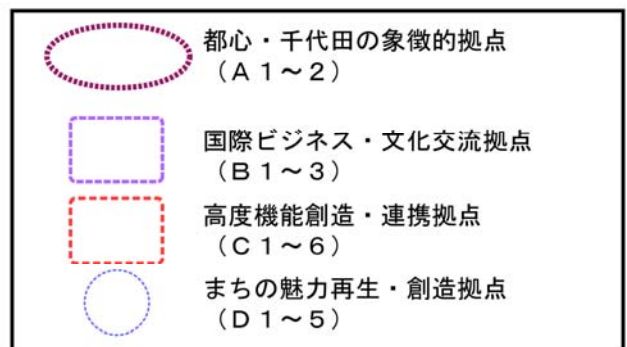
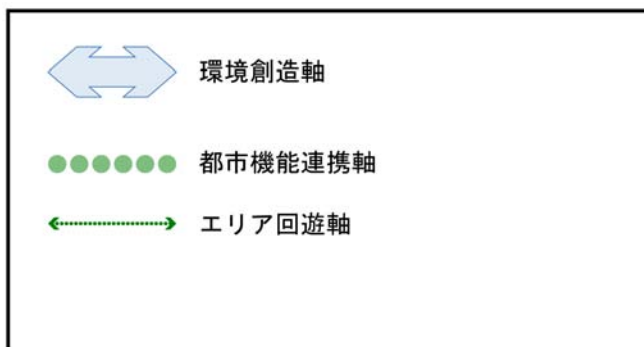
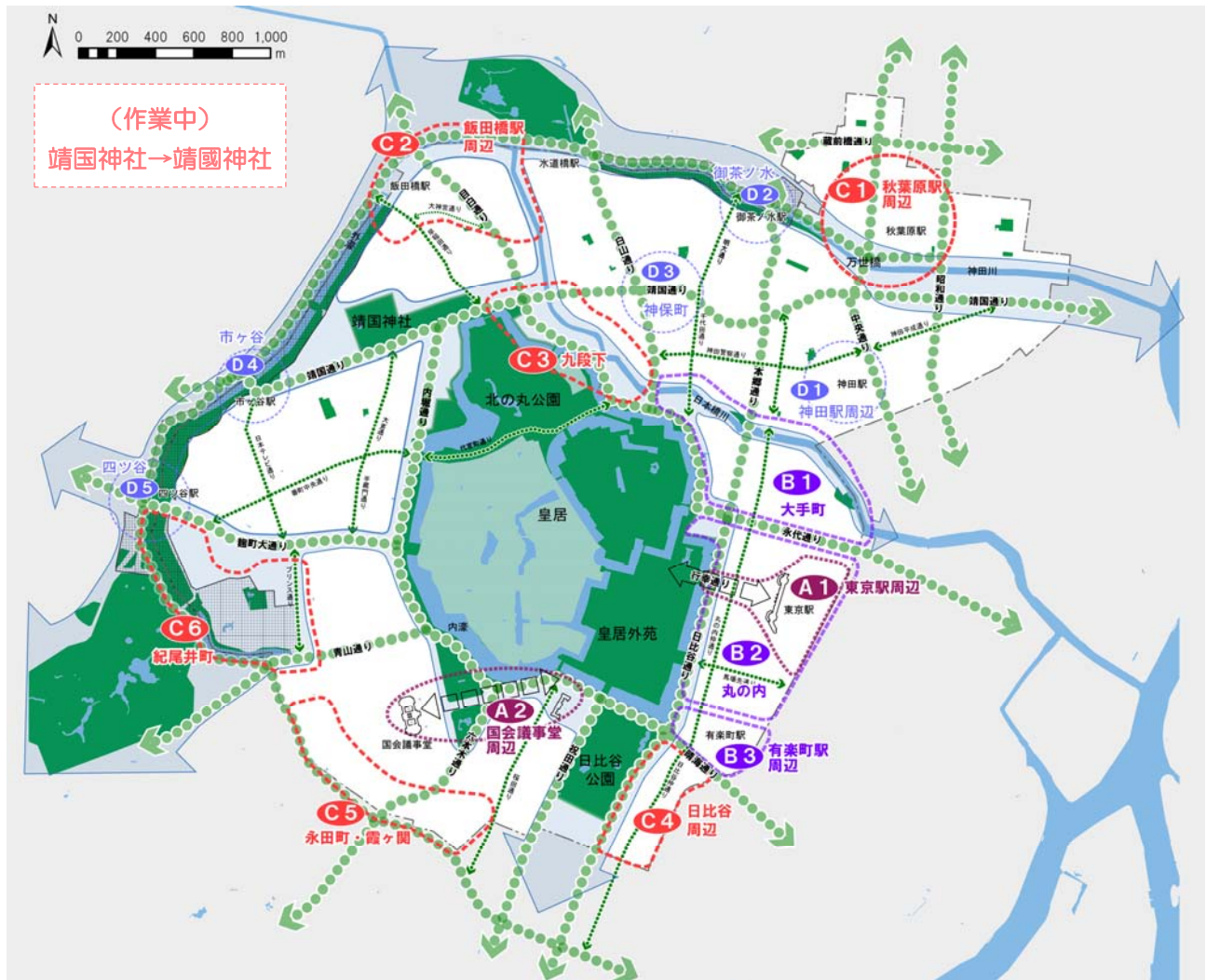
官民が連携して、平常時・災害時の多面的な空間活用を広げるマネジメント

都心の楽しさ、居心地の良さを感じられる創造的な空間活用と管理・運用を広げていきます

- ★都市計画中央公園等、皇居・濠と連続性の高い公園・緑地の一体的な管理・活用を進めていきます。
- ★都心・千代田のまちづくりの系譜の中で育まれた個性あるまちの界索性、人のつながり、都心生活の豊かさを育む創造的な空間活用と“場”の創出を促進していきます。
- ★平常時・災害時にオープンスペースの多面的な機能が発揮され、都心生活を豊かにしていくよう、空間の創出・利活用において、官民連携の様々な手法を効果的に活用していきます。
 - ・新しい文化・コミュニティを育てる空間・スペース ・防災の拠点形成
 - ・生物多様性に配慮した自然度の高い空間 など
- ★都心ならではの魅力を創造する空間・活動（プレイスメイキング）とその運営・マネジメントの展開を発見していきます。
- ★官民が連携したオープンスペースを充実させていく様々な手法・制度を効果的に活用していきます。
 - ・市民緑地認定制度、SEGES：緑の認定制度等
 - ・公共空間とその利活用のポテンシャルの評価（Potential Public Resource）

▶方針図

心地よさが際立ち、安らぎを感じる都心環境の形成



都心の骨格的な緑と水辺	
環境創造軸	江戸城の遺構としての歴史性とともに、皇居周辺の大規模緑地、内濠、外濠、日本橋川、神田川の緑と水の骨格を保全・継承していきます。多様な生物が棲息し、多くのひとに親しまれる空間・ネットワークを形成し、豊かで快適な都心環境を創造・継承していきます。
都市機能連携軸	都心の放射・環状の骨格的な道路沿道において、街路樹や特徴ある並木、植栽とその適切な維持管理などによって、うるおいある環境や沿道の連続性を強めていきます。
エリア回遊軸	まちと駅、個性ある界隈をつなぐエリアの主要な道路沿道において、歩きやすく、潤いを感じられる環境、空間の創出を進めていきます。

拠点育成に伴い再生・創造する豊かな空間	
都心・千代田の象徴的拠点	東京駅丸の内駅舎、駅前広場、行幸通りなど、首都・東京の顔となる象徴的空間を中心に、周辺街区の建築物や敷地内の空地、道路等の公共空間、地上・地下の通路などがトータルデザインのもとに連続性と一体性を保ち、親しみ活用される拠点としていきます。 国会議事堂及び周辺においては、首都機能を象徴する景観と空間構成を継承する拠点としていきます。
国際ビジネス・文化・交流拠点	都心ならではの国際的な都市機能や多彩な都市機能が高度に集積するなかで、都心の骨格的な緑と水辺との連続性を高めながら、働き、訪れ、滞在するひとがより豊かな時間を過ごし、都心の多彩な活動に参加し、体験・交流できる空間がつながり、広がっていく拠点としていきます。
高度機能創造・連携拠点	まちの顔となる主要な都市機能が集積するなかで、地上・地下、公共・民間の空間の連続的・一体的なデザインや空間活用を進めるなかで、多様なひとが集まり、活動しやすい環境が充実させていく拠点とします。
まちの魅力再生・創造拠点	複数の鉄道路線が交差する利便性の高い駅周辺で、地上・地下の移動しやすい空間、安全でゆったりと滞留できる空間が充実し、駅とまちのつながりを充実させていく拠点とします。

エリアごとの個性的な空間のつながり	
麹町・番町・富士見エリア	内濠・外濠などの骨格的な緑と水辺に囲まれ、居住と商業・業務機能、大使館、教育施設などが調和した落ち着いた市街地環境と都心生活がより豊かになるよう、建物（壁面・屋上等）や敷地内の緑化、視覚的な緑の連続性を高め、うるおいを感じる街並みを形成するとともに、世代を超えた交流や多様性を活かした新たなコミュニティ、文化を育てる空間の充実を進めていきます。
秋葉原・神田・神保町エリア	江戸の下町の風情や味わいある建物とともに、路地など奥行きを感じる空間を大切にしながら、道路・公園等の既存の公共空間との一体的な空間、街区レベルの開発等を契機に創出される新たな空間などとともに、まちの活力、賑わい、文化を継承・創造していけるよう、多彩な“場所”を活用し、マネジメントしていきます。
都心中枢エリア	都心・千代田の象徴的拠点、国際ビジネス・文化・交流の拠点において、都心ならではの豊かな空間の創造を進めるとともに、永田町・霞ヶ関の一帯（一団地の官公庁施設）では、国会議事堂周辺の緑地や日比谷公園、内濠等の水辺と一体的な環境を保ち、緑豊かな国家中枢機能の風格を継承・創造していきます。

▶ **連携の方針**

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

「緑と水辺がつなぐ良質な空間をつくり、活かすまちづくり」の方針にあわせて、各方針の連携のポイントを明確にし、効果的なまちづくりを進めていきます。

分野の境目のない効果的な連携

方針 2：緑と水辺がつなぐ良質な空間をつくり、活かすまちづくり

1. 江戸城の遺構を骨格とした緑と水辺の継承と充実
2. 都心生活の価値を高める多彩な空間の創出・再生（デザイン）と創造的活用
3. 官民が連携して、平常時・災害時の多面的な空間活用を広げるマネジメント

方針 3：都心の風格と景観、界隈の魅力を創出・継承するまちづくり

江戸城の遺構を骨格として、高低差のある伸びやかな眺望と風致の維持・活用

★都市の緑と水辺を活かした良好な景観形成の推進

方針 6：災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり

大規模災害時に機能する都市の骨格形成

○避難路としての機能強化に配慮した街路樹や植栽帯の充実

★災害時等の利用・貢献を想定した緑と水辺の空間デザインの創出や維持管理

都市マネジメント（まちづくりのエンジンの進化）

都心の多様な力を活かして魅力を創造する空間の維持・管理・活用のデザイン

● 方針 3 ●

都心の風格と景観、界隈の魅力を 継承・創出するまちづくり

未来へのまなざし

都心の風格とまちの文脈がつなぐ界隈

江戸城の遺構を基本とする歴史的建造物と緑と水の骨格を継承しながら、東京駅丸の内駅舎をはじめとする象徴的な建造物の復元とともに、都市再生の進展にあわせて、首都東京の風格や都心の眺望、文化を楽しめるようデザインされた高質な空間や通りが随所に生まれています。今後も、都心ならではの風格・品格や豊かな空間創造の拡大につながるよう、旺盛な都市再生の活力による貢献と行政の取組みの連携を効果的に誘導していきます。



首都東京の象徴的な建造物の保全・復元と空間のデザイン
都市再生による風格ある建物のデザインの継承・復元
都心の風格や眺望を楽しめる空間の創出
江戸・東京の遺構や水辺を活かした空間
都心を楽しむ新たな文化的機能の充実

一方、神田や麹町・番町～富士見の各エリアでは、味わいある下町の風情、都心の落ち着きある高質な居住地、教育施設等が集積する文教地区などにおいて、まちの文脈や文化を感じさせる建物が個々に保全されてきましたが、近年、開発や機能更新が進んだ地区では、界隈を象徴する建物などが減少し、街並みの魅力や味わいが薄れつつあります。そのため、建物の外観だけでなく、まちの文脈や、文化、ひととまちのつながり、生業や生活のものがたりの魅力を伝える“場”としての機能を継承・再生し、周辺区も含めた連続的なエリアとして、界隈の魅力や味わい、つながりを感じ、楽しめるまちにしていきます。



まちの象徴的な建造物等の保全と活用
まちの資源を活かした界隈の街並み再生（神社、稲荷、史跡等）
リノベーションによる“場”の価値の再生・創造
文化としての活動の広がり
新たな空間・機能の創造的連携
（開発と個別の建物更新、リノベーションの相乗効果）

▶ 景観づくりの概況とこれからの視点・論点（課題）

これまでのまちづくりで目指してきたこと（従来の目標）と主な取組み・成果をふりかえり、これからのまちづくりの視点・論点をふまえ、主要課題を以下のようにとらえています。

● 従来の目標 ●

まちの個性や魅力を 活かした、愛される景観に

○多様なまちの個性や魅力を尊重・活用し、より多くの人に愛される景観としていく

- ・歴史的に継承されてきた象徴的で多様な空間
- ・地域ごとの落ち着いた佇まい
- ・特徴ある産業の集積
- ・豊かな緑と水辺 など

● まちづくりの主な取組み・成果 ●

- (1) 「千代田区景観まちづくり条例」「千代田区景観形成マスタープラン」に基づき、建築物の新築等に際して、計画段階から良好な景観形成を誘導
- (2) 区民に親しまれ、景観まちづくり上重要な建造物等を「景観まちづくり重要物件」に指定
- (3) 開発事業も契機としながら、まちの景観資源、緑、賑わい空間を保存・活用・創出



東京駅丸の内駅舎（復原）の眺望



弁慶濠と赤坂見附跡



日比谷公園と一体性の高い屋上テラス

従来の目標・取組みをベースに、未来に向けて進化するまちづくり

● これからのまちづくりの視点・論点 ●

都心の風格とまちの文脈がつなぐ境界

象徴となる
景観

眺望を楽しむ
視点場

「文化」と
まちづくり

建物やまちに刻まれた
人々の思いや営み

境界性

街の魅力・
アイデンティティ
の詰まったエリア

多様性と境界
新たな魅力

都心体験と ICT
関係人口

整備・開発
にあわせた
景観形成

景観形成の
法制度

境界性と景観法
に基づく展開

【主要課題】

- ◇歴史的遺構や文化的遺産の顕在化と継承、創造的活用
- ◇クリエイティブな活動の場づくり（文化・芸術、健康・スポーツ等）
- ◇境界の味わいやまちの文脈、ものがたりを感じるまちづくりの展開

▶ まちづくりの目標

これからのまちづくりの視点・論点・主要課題をふまえて、「**都心の風格と景観、界隈の魅力を継承・創出するまちづくり**」の目標を以下のように定めます。

目 標

**歴史と先進性が共存・融合する
都心の風格をより際立たせ、味わいや風情、
多様な生活と文化を感じられる界隈を伝えていく**

(作図中)
まちづくりのイメージ図

区全体の将来像 の展開イメージ	『つながる都心』 × 都心の風格と景観、界隈の魅力を継承・創出するまちづくり
歴史・文化 がつながる	◇皇居や内濠・外濠をはじめとする江戸城の遺構が形づくる眺望や緑・水辺と一体となった風格ある街並みが維持され、まちなかのあらゆる場所で、遺構の顕在化を意識したデザインによる空間創出が広がり、首都・東京の都心ならではの高質な風格・景観が維持・形成されている
ひと・まち・コミュニティ がつながる	◇江戸以来のまちづくりの系譜の中で育まれてきた地域それぞれの個性ある界隈性、生業やコミュニティ、祭りなどの文化とともに、歴史的建造物や坂道の風情や稲荷、味わいある看板建築、路地の風情などのつながり大切にして、まちの機能更新が進んでいる
未来・世界 へとつながる	◇個性ある界隈の建物のリノベーション・耐震化、路地空間を活かした共同化など、地域の課題解決を抜本的に進める街区再編や市街地再開発事業などの大規模開発事業が効果的な区域と相互に効果を高めあう“エリアのリノベーション”の手法が多様化し、まちの個性を大切にしたいまちづくりが展開されている
あらゆる情報 でつながる	◇建物・空間のストック等の情報が蓄積され、効果的なリノベーションが進んで、まちの魅力・界隈の味わいにつながる新しい活動や生業、文化の醸成につながっている

▶ まちづくりの方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

まちづくりの目標を具体化し、効果的に取組みを進めていくため方針を以下のように定めます。

方針 1

都心の風格の継承・創造

江戸城の遺構を骨格とした都心の象徴的な景観や眺望、風格ある街並みを継承し、楽しめるようにしていきます

- 江戸から歴史的に継承されてきた首都・都心の構造と象徴的で多様な空間・資源を継承し、活用していきます。
- 江戸以来の首都・東京の顔として、風格をもち、親しまれる都心の質の高い景観を保全し、都心・千代田ならではの魅力ある街並み、風景を創造していきます。
- ★“世界の中の東京”を意識し、江戸の遺構・歴史資産を継承し、顕在化・活用しながら、都心の風格・品格をつくる象徴的な空間デザインや効果的な演出、その眺望を楽しむ公開性の高い視点場の創出を進めます。

方針 2

地形の特徴や地域資源等を活かした景観の保全、形成

起伏のある地形やまちの個性を彩る界隈の要素、文化を活かした街並み、環境づくりを進めます

- ★地域のランドマーク、史跡・神社・稲荷、看板建築等の味わいある建物、坂や崖線など周辺の地形等の特色などを活かし、地域の味わいを感じる街並み・環境づくりを進めます。
- ★地区計画など、味わいある建物や空間を活かした界索性、楽しく歩ける街並み再生を進めるための手法・制度を活用したまちづくりを確立していきます。
- ★都心の新たな観光・体験・交流・滞在の場として、界隈を楽しむ魅力や空間・機能、サイン等の情報案内などを充実していきます。

方針 3

界隈の個性を活かした魅力再生・継承

まちの文脈、個性、生業や文化のつながりを感じるまとまりあるエリアで、都心の風格や界索性を継承し、魅力を高めるための制度・手法を確立していきます

- ★丸の内や大手町・丸の内・有楽町、神田古書店街、番町の落ち着いた住宅地など、まちづくりの系譜、歴史の積み重ねの中で育まれてきた地域の文化・文脈と界隈ごとの個性を活かし、近接する区外の個性ある界隈との連携も図りながら、街並み・環境の魅力の継承、再生・創造を進めます。
- ★MICE やアフターコンベンション、豊かな都心生活の幅を広げるナイトエコノミーなど、都市観光や文化・交流の中から新たな界索性を醸成し、都心の新たな魅力として継承していきます。
- 周囲の景観と調和した美しく、わかりやすいデザインで、案内サイン（案内表示）の整備や、商店・オフィス等の看板の整備・誘導を進めます。
- ★景観法・景観計画に基づき、景観行政団体として、まちづくりや開発協議等にあわせて、地域の魅力・価値の継承・再生・創造を誘導していくくみづくりを進め、運用・改善を行っていきます。
- ★都心の進化や国際化、豊かな都心生活、まちの魅力ある活動を楽しみ、体験・交流が広がる場づくりを進めていきます。
 - ・界隈の個性を際立たせる生業の継承・再生のしくみ
 - ・祭礼・イベント等の活動を風景として楽しむ空間の創出と活用のしくみ など

▶方針図②

地域、界隈の個性・魅力の継承と創造



多様な地域、界隈の特性に応じた
景観形成のエリア



首都東京の景観を
つくる重点エリア



象徴的景観
と視点場



区内外の個性ある界隈



都心・千代田の
象徴的拠点



都市機能連携軸



エリア回遊軸

特別史跡江戸城跡、
史跡 江戸城外堀跡

■ 史跡、文化財等
(国重要文化財、都・区文化財)

■ 景観まちづくり重要物件

都市計画公園・緑地

河川・濠

一団地の官公庁施設

コラム 千代田区の個性ある界隈やまちかどの風景を彩る大切な要素【例示】

江戸城の遺構、江戸から首都・東京の進化の過程で建設された歴史的建造物や土木遺構、史実や小説に描かれたものがあり、地域の人々に受け継がれてきた祭りや文化と重なり合って、個性ある界隈やまちかどの風景を彩るひとつひとつの要素が歴史の味わいや風情、まちの魅力を感じるアクセントになっています。

▶江戸城の見附跡

〔牛込門跡〕



▶天下祭りとまちのまとまり

〔神田祭・山王祭巡行路〕



〔神田明神〕



▶風格ある街並みの面影を伝える歴史的建造物

〔ニコライ堂（神田駿河台）〕



〔学士会館〕



〔旧李王家東京邸〕



▶土木遺産

〔レンガ高架橋（旧万世橋駅）〕



〔聖橋〕



▶ライフスタイル × リノベーション

〔東神田〕



▶まちに息づく風情・味わいある建物・生業

〔出世不動尊〕



〔老舗（神田須田町）〕



▶アート × リノベーション

〔看板建築（神田須田町）〕



▶文化人が居を構えた番町文人通り

「東京市麹町区全図」[明治28年] <部分>



出典：常設展示図録／千代田区立日比谷図書文化館

▶ 連携の方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

「都心の風格と景観、界隈の魅力を継承・創出するまちづくり」の方針にあわせて、各方針の連携のポイントを明確にし、効果的なまちづくりを進めていきます。

分野の境目のない効果的な連携

方針 2：緑と水辺がつなぐ良質な空間をつくり、活かすまちづくり

都心の豊かな緑と水辺とまちをつなげる景観形成

- 大規模な緑地空間、水辺空間の保全・活用
- 身近な緑を守り、育み、安らぎのある景観づくり
(公園・広場・公開空地、民有地の庭や屋上・バルコニーなど)
- ★次世代における緑地と水辺のつながりのデザイン
- ★開発に伴う良質な緑の創出と居心地の良い空間の創出・活用
- ★水辺に親しめる空間の創出、水辺に顔を向けた建築誘導による景観形成の推進

方針 3：都心の風格と景観、界隈の魅力を創出・継承するまちづくり

1. 都心の風格の継承・創造
2. 地形の特徴や地域資源等を活かした景観の保全、形成
3. 界隈の個性を活かした魅力再生・継承

方針 4：道路・交通体系と快適な移動環境がつながるまちづくり

移動しやすく、歩いて心地よい環境とみちの景観づくり

- 電柱や電線類の地中化
- 歩道にはみ出した立て看板、違法駐車・駐輪、ごみのポイ捨てなどの改善
- ★近接する区外の個性ある界隈との相乗効果を高める移動しやすい環境の充実

● 方針 4 ●

道路・交通体系と快適な移動環境がつながるまちづくり

未来へのまなざし

交通結節機能と移動ネットワーク

都市骨格軸を基本とした放射・環状の道路体系が確立されつつあるなか、災害時にも寸断されることのない都市基盤として強靱性を高めていくとともに、鉄道、バス、コミュニティサイクルなど、高度化された移動ネットワークを有する千代田区の魅力やポテンシャルがさらに高まるよう、高齢者をはじめ、都心の多様な生活者、来訪者、滞在者等が公共交通を使って安全かつスムーズに移動できる環境を一層充実させていきます。



都市骨格軸を形成する道路体系の確立
鉄道駅へのスムーズなアクセス、駅と周辺のまちのつながり
多様なひとの移動サポート環境、災害時の持続性

さらに、高度に集積するひとの多様性をふまえて、技術革新の進展や人生 100 年時代の到来、自動車利用の減少などの変化やニーズにいち早く対応できるよう、社会実験等で、次世代の交通・移動のシステムの実装化に挑戦し、
交通モードを高度化・多様化していくこと、
シームレスな乗り換えで都心の移動環境をより快適にすること、
個性豊かな界隈をゆったりとしたスピードで移動して楽しむ環境を充実すること、
街区構成、歩行者・自動車の通行状況に応じて道路・駐車場等を再編すること など
道路・交通基盤とひとの移動の最適なマネジメントによって、
都心の移動と様々な都心生活や活動を支え、魅力・活力を高めていきます。



多様な交通モードとその結節点（シームレスな乗り換え環境）
技術革新への対応・実装化に向けた取組み（社会実験等）
ヒューマン（スロー）なスピードでまちの魅力を楽しむ移動
高度なひとの集積や多様性、活動を支える交通・移動マネジメント

▶ 道路・交通体系整備の概況とこれからの視点・論点（課題）

これまでのまちづくりで目指してきたこと（従来の目標）と主な取組み・成果をふりかえり、これからのまちづくりの視点・論点をふまえ、主要課題を以下のようにとらえています。

● 従来の目標 ●

歩行者と環境に やさしいみち、駅に

○道路の多様な機能を調和させ、生活者の視点で人にやさしいみちをつくるとともに、鉄道駅をより快適、安全に使えるようにしていく

○自動車交通による環境への負荷を減らすため、自動車交通への抑制・分散や円滑化、公共交通機関の整備充実・利用促進等に取り組む

● まちづくりの主な取組み・成果 ●

- （１）歩道や交通安全の設備等の整備、電線類地中化により、道路のバリアフリー化、景観の向上、災害時の救助救援活動の円滑化を推進
- （２）駐車場、自転車駐車場の整備等を進め、放置自転車の撤去台数が減少
- （３）周辺区と連携したコミュニティサイクル事業の推進や自転車道の整備などで、自動車から自転車への転換、回遊性の創出、地域・観光の活性化を推進
- （４）地域福祉交通「風ぐるま」の推進により、高齢者、障害者、子育て世代等の区民の交通が充実（区施設や福祉施設、麴町・番町地域～和泉橋地域等の人口集中エリアを網羅）



コミュニティサイクル（シェアサイクル）



自転車専用道の整備



地域福祉交通「風ぐるま」

従来の目標・取組みをベースに、未来に向けて進化するまちづくり

● これからのまちづくりの視点・論点 ●

駅とまち、ひとをつなぐ次世代の交通結節機能と移動ネットワーク

全体戦略と
マネジメント
次世代モビリティ
+ 地区内交通

交通結節点
の移動環境
駅・まち一体
のまちづくり

ひと優先の
道路空間
ウォークアブル
空間の連続性

進化する
交通モード
シームレス
技術革新

開発等に伴う
道路整備
バリアフリールート
電線類の地中化

変化する
需要と課題
自動車利用減少
駐車場マネジメント

道路整備・
管理・活用
地域の合意形成
とマネジメント

【主要課題】

- ◇安全・快適で分かりやすい、駅・まち一体となった交通結節機能の強化
- ◇様々な技術革新等による交通モードの多様化への対応と最適化
- ◇都心における自動車利用の動向をふまえた道路空間・駐車施設と交通のマネジメント

▶ まちづくりの目標

これからのまちづくりの視点・論点・主要課題をふまえて、「**道路・交通体系と快適な移動環境がつながるまちづくり**」の目標を以下のように定めます。

目 標

**都心の歩行者の移動をより快適で楽しくするしかけや、
多様な交通モードをつないで利便性の高い
交通結節機能を進化させていく**

(作図中)
まちづくりのイメージ図

区全体の将来像 の展開イメージ	『つながる都心』 × 道路・交通体系と快適な移動環境がつながるまちづくり
歴史・文化 がつながる	◇エリア回遊軸や神田川・日本橋川を軸に、自転車や舟運など、まちの個性ある界隈を楽しみながらゆったりと移動できる交通モードや乗り換えの拠点がネットワークされている
ひと・まち・コミュニティ がつながる	◇交通結節機能が充実する鉄道駅など、拠点の地上・地下をつなぎ、安全・快適にまちを歩ける空間・みちが続いている ◇道路等の公共空間が公園・緑地や建物周囲の空地等との連続性を強めながら、自動車交通量の変化等にあわせて再構成され、人間中心の空間として創造的活用が進んでいる
未来・世界 へとつながる	◇首都・東京の中核を担い、大規模災害時にも冗長性のある、強靱な移動ネットワークや道路体系が適切に維持・更新されている ◇東京駅や空港アクセスの拠点（リムジンバス停留所）など、広域的・国際的な交流を支える交通結節機能が充実している ◇超小型モビリティ、自動運転など、先端の技術が実装されて、多様な交通モードが切れ目なくつながり、都心の移動が円滑で快適になっている
あらゆる情報 でつながる	◇自動車交通量、物流に伴う交通や駐車場のニーズ、時間ごとの都市活動に伴う歩行者の移動や都市活動の変化など、多様な情報・データに基づき、地域の実情に応じて移動・交通がきめ細かなマネジメントされている

▶ まちづくりの方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

まちづくりの目標を具体化し、効果的に取組みを進めていくため方針を以下のように定めます。

方針 1

広域的・骨格的な移動軸の強化

広域的な都心アクセスの拠点における交通結節機能を充実させていきます

- ★国内外からの来訪者の増加に対応して、鉄道駅や空港からのバス等のアクセス拠点など、都心アクセスの目標となるエリア・拠点の交通結節機能を充実させていきます。

方針 2

誰もが快適に移動できる環境の創造

駅とまちをつなぐ地上・地下の快適な移動環境を創出していきます

- ★駅前広場空間や道路・地上と地下をつなぐ歩行者通路等のネットワーク整備による利便性向上など、公共交通の拠点（駅周辺）のまちづくりと連携して、地上・地下をつなぐデッキ・広場・通路など、安全で快適な移動環境を創出します。
- ★エリア回遊軸を軸にして、歩きやすいみちや歩行者空間や公園・広場、歴史的資源、空地等をネットワークでつなぎ、だれもが安心して、心地よく楽しく歩けるみちづくりを進めます。
- ★ひとそれぞれのゆったりしたスピードで、個性ある界隈の魅力を感じながら移動できる道路環境の充実を図るとともに、自動車の通り抜け等を抑制するなど、歩行者との共存したみちづくりを進めます。

方針 3

多様な交通モードを切れ目なく活かせる移動・物流のネットワークとマネジメント

まちやひと、活動の特性・課題に応じて、まとまりあるエリアごとの最適な移動をマネジメントしていきます

▶ 多様でシームレスな移動ネットワーク

- ★ICT を介して、既存の交通手段と技術革新とともに多様化する新しい交通手段が切れ目なくつながり、都心生活の様々な場面や移動距離等の様々なニーズに対応して選択可能なネットワークの形成を進めていきます。（自動運転技術、自転車・超小型モビリティ等のシェアリング、舟運・舟旅等）
- ★技術革新の進展をいち早く捉えて実証実験から実装化への道すじをつくり、次世代のニーズに応じた移動環境システムの導入を進めます。
- ★多様な交通モードを切れ目なくスムーズに利用できるよう、誰もが円滑に乗り換えられる交通結節機能を充実させていきます。

▶ 自動車交通と駐車場のマネジメント

- ★公共交通機能の更なる利便性向上や自動車保有率の低下、三環状道路など広域的な道路ネットワーク整備の進展などの動向を踏まえて、都心の自動車交通量の減少や街区の実情に対応した交通と駐車場利用などの最適化・マネジメントを行います。
- ★I o T でつながるモノの移動（荷捌き等）の円滑化やサービスの進化に対応して、駐車場や荷捌き車両のための空間・施設の充実を誘導します。

方針 4

技術革新や街区の実情に対応して進化する、高度で柔軟な交通と空間のマネジメント

交通需要の変化や移動マネジメントの戦略に応じて、ひとの目線から道路空間の効果的な再編・活用を進めていきます

▶ 歩きやすいみち／使いやすいみち／おでかけが楽しいみち

○道路のもつ多様な機能に応じて、体系的な整備を進めていきます。

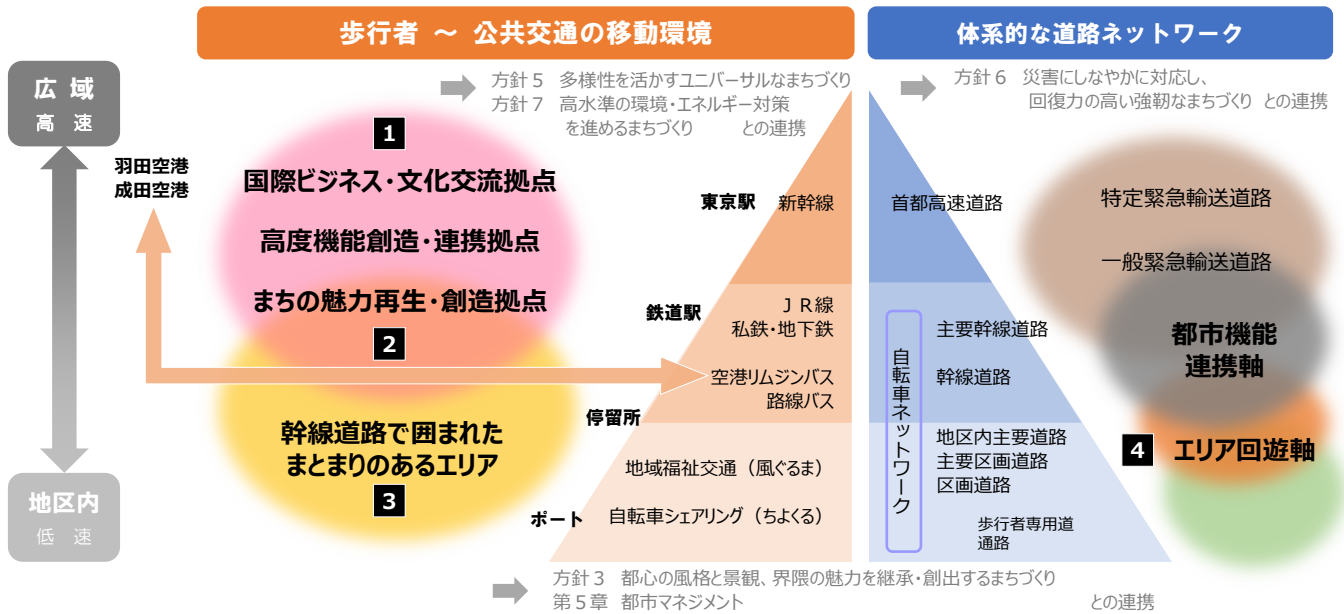
【附图：多様な機能を分担する道路体系】

- ★ひとと優先で、ウォーカブルで多様なひとがお出かけを楽しむ都心の道路空間のあり方について検討を進め、主変のオープンスペースと一体性の高い効果的な道路空間のリメイクによって、歩行者や自転車優先のみちづくりを推進していきます。（歩道、歩車分離の構成見直し等）
- ★次世代の交通モードの導入や自動車利用の変化、街区の実情に対応して、その効果を十分発揮できるよう道路空間の最適化を進め、円滑な交通と安全性を前提とした、公共空間としての道路の活用とマネジメントを展開していきます。

▶方針図

都心への広域アクセスとエリアの特性に応じた移動環境

都心・千代田の移動環境と道路ネットワークのイメージ



1 拠点における充実した交通結節機能



2 駅・まち、地上・地下をつなぐ移動環境



3 多様な交通モード+エリアごとの移動マネジメント

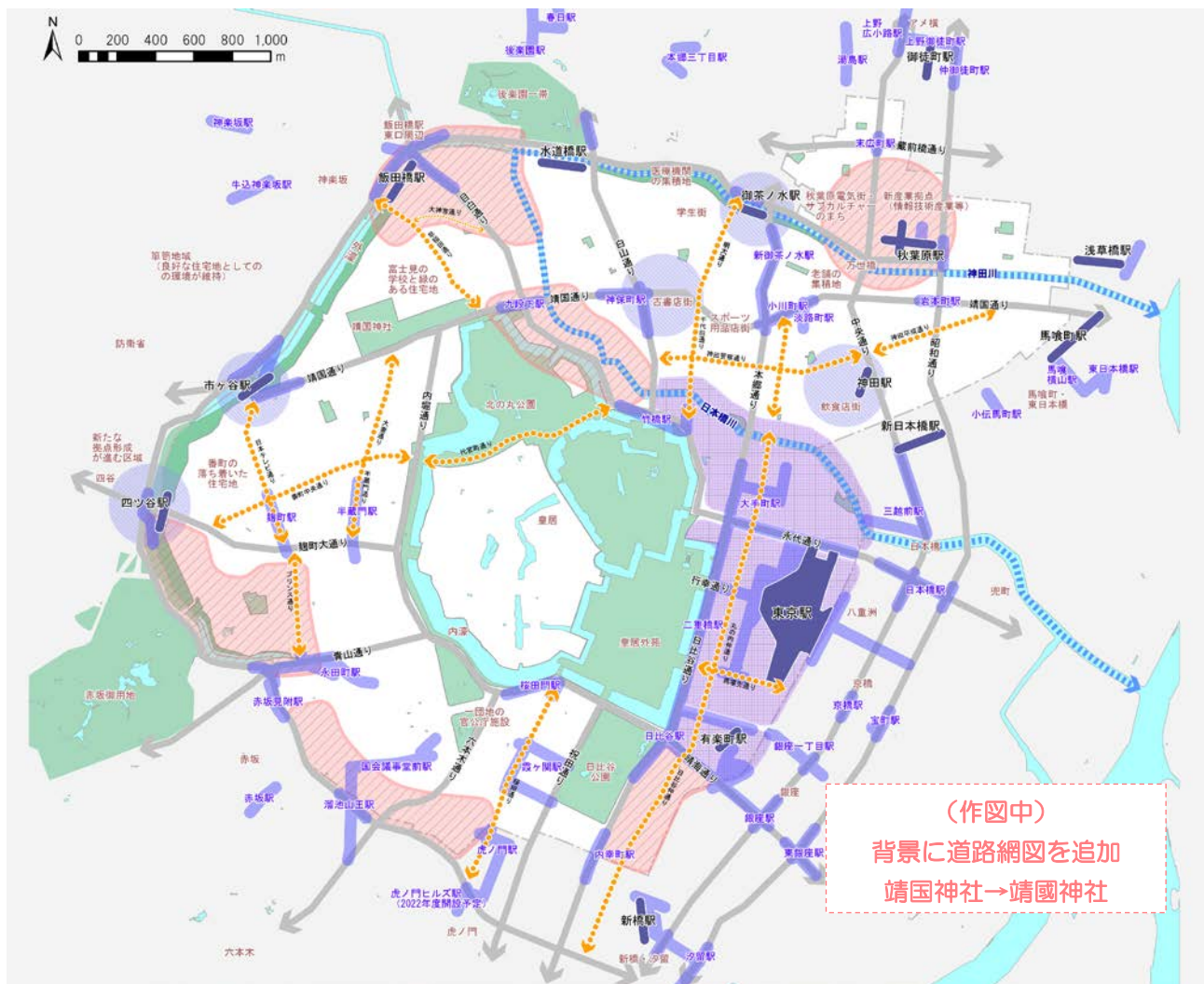


4 ひとの目線からの道路空間の再編・活用



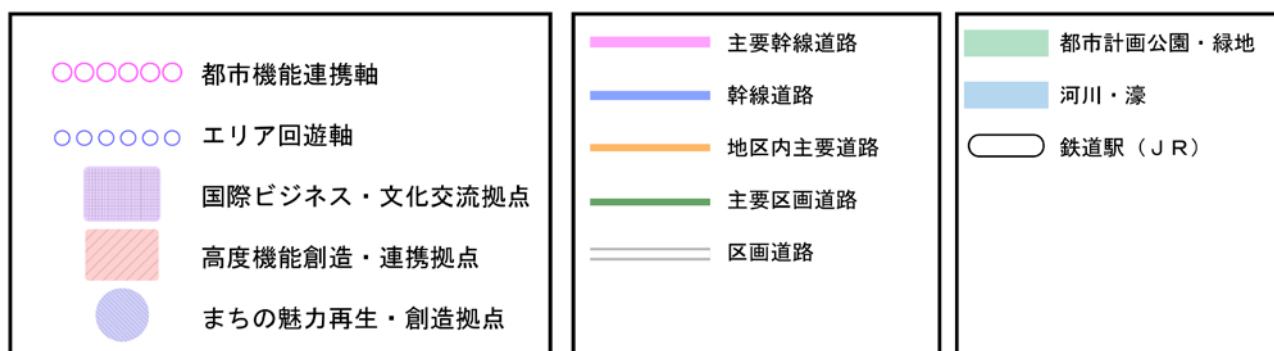
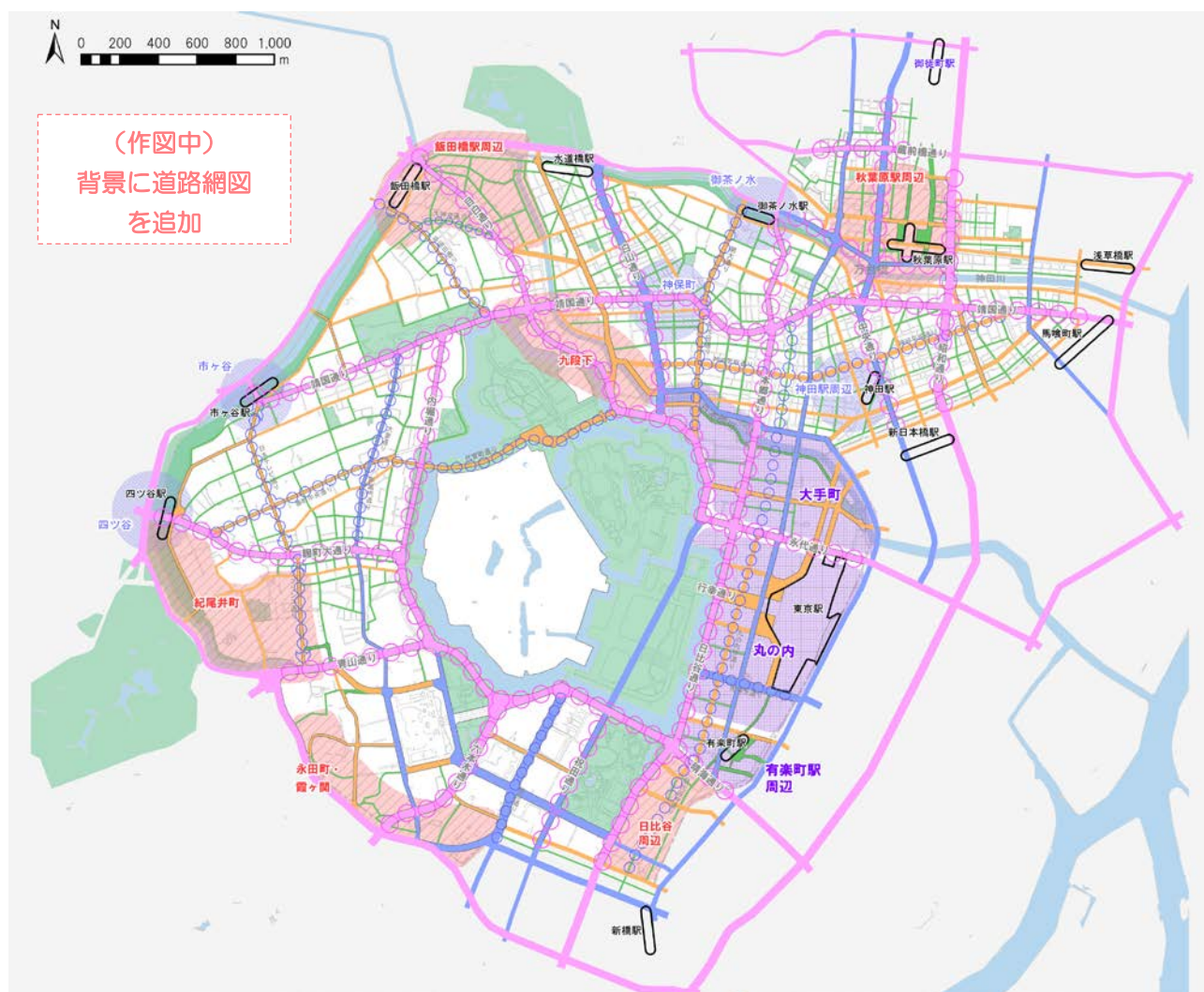
写真：NPO法人 大丸有エリアマネジメント協会（Ligare）

▶ 附 図 拠点と都市骨格軸を基本として多様な都心の活動を支える移動空間



-  国際ビジネス・文化交流拠点
-  高度機能創造・連携拠点
-  まちの魅力再生・創造拠点
-  都市機能連携軸
-  エリア回遊軸
-  鉄道駅（ＪＲ）
-  地下鉄駅とまちをつなぐ通路等
-  日本橋川～神田川の軸
-  都市計画公園・緑地
-  河川・濠

▶ 附 図 多様な機能を分担する道路体系



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 の地形図を利用して作成したものである。
(承認番号) 30 都市基交著第 44 号

位置づけ		方 針
広域的な交通を処理する道路		
都心の骨格を形成する道路として整備の推進を図り、街並みや環境形成、広域的な移動の軸としての機能を確保するとともに、大規模災害時にも機能するよう、適切な更新や維持管理を関係機関に働きかけていきます。		
主要幹線道路	都市の骨格を形成し、都市間交通や通過交通等の広域的な交通を処理する	現状の都市計画道路を基本として、国・都の各整備担当機関に事業推進を要請します
幹線道路	主要幹線道路と並んで都市を形成し、広域的な交通と地区内の交通を処理する	
生活に密着した地区内の交通を処理する道路		
将来の自動車利用や移動・物流等の需要、自動運転等の技術革新等を見据え、ブロックごとの最適なマネジメントを進めるなかで、ひと優先で移動しやすい道路への空間再編等のあり方を見直していきます。		
地区内主要道路	地区の骨格を形成し、地区レベルの交通を集約的に処理する	地区内の主要な路線として、防災にも配慮した安全な「交通軸」、通勤通学や買い物等における快適な「生活軸」、緑とゆとりのある快適な「環境軸」などの多様な機能を備えるよう整備します。 〔配置〕 現存する道路を基本としつつも、各種開発事業に際しては概ね 300m に一路線とすることを基準とし、幅員 13m（車道部 7m・歩道部 3m×2）を目標とします。
主要区画道路	各区画道路の交通を地区内主要道路に集約する役割を担う	区画道路のうち主要な路線であり、歩行者の利用も多いため、通過交通の抑制と歩車共存型道路の形成に努め、一方通行を検討するなど、地域のコミュニティ空間としても機能するよう整備します。 〔配置〕 現存する道路を基本としつつも、各種開発事業に際しては概ね 150m に一路線とすることを基準とし、幅員は消防活動を考慮して 6～8m を目標とします。
区画道路	最小単位の道路であり、個々の宅地へのアクセスを担う	個々の宅地にアクセスする最小単位の道路であり、歩行者の安全性に特に留意して整備します。 〔配置〕 現存する道路を基本としつつも、各種開発事業に際しては歩行者の安全性、防災性、緊急車両の通行等を考慮して計画します。

▶ 連携の方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

「道路・交通体系と快適な移動環境がつながるまちづくり」の方針にあわせて、各方針の連携のポイントを明確にし、効果的なまちづくりを進めていきます。

方針 3：都心の風格と景観、界隈の魅力を創出・継承するまちづくり

界隈の回遊を楽しむみちづくり

○道路通称名の設定、案内表示板の整備

★高齢化、多言語化に対応したわかりやすいサイン・情報の充実

方針 4：道路・交通体系と快適な移動環境がつながるまちづくり

1. 広域的・骨格的な移動軸の強化
2. 誰もが快適に移動できる環境の創造
3. 多様な交通モードを切れ目なく活かせる移動・物流のネットワークとマネジメント
4. 技術革新や街区の実情に対応して進化する、高度で柔軟な交通と空間のマネジメント

方針 5：多様性を活かすユニバーサルなまちづくり

誰もが安心して歩けるみちづくり

○だれもが安心して、心地よく楽しく歩けるみちづくり

○歩道の段差解消、災害時の避難経路としての整備

方針 6：災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり

大規模災害時に機能する都市の骨格形成

★大規模災害時に機能する都市骨格軸の確立

方針 7：快適な都心環境を育てるまちづくり

移動にかかる環境負荷の軽減

○都心の生活と活動を支える公共交通機関の整備と利用促進

（公共交通機関の整備と利用促進、時差出勤によるラッシュ時の混雑緩和）

（自動車交通量の抑制、自転車の利用促進等）

都市マネジメント（まちづくりのエンジンの進化）

官民連携のみちづくり

○歩道の整備・拡幅

○街路樹や植栽帯の整備、民有地・建物の緑化

○壁面後退、公開空地の創出

○電線類の地中化

○違法駐車・違法駐輪・路上看板などの適正化

● 方針 5 ●

多様性を活かすユニバーサルなまちづくり

未来へのまなざし

障壁のない多様な活動と交流

子どもや高齢者、障害者を含む全ての人にとって暮らしやすい住宅整備、まちの環境や駅、みち、住宅・施設の整備が一定程度進んできたなかで、子どもやファミリー層の増加、高齢化の進行などの見通しやニーズを踏まえて、安心できる居場所があり、おでかけがしやすく、社会とのかかわりをもちながら、自分らしく生活・活動できる環境を充実させていきます。



駅とまちをつなぐバリアフリールート

多様な人が安心してすごせる、まちのなかの居場所

気軽におでかけできる環境

子育て、医療や地域包括ケアなど、
住み慣れたまちで長く暮らせる環境

また、都心には、外国人（観光客・ビジネスワーカー、居住者など）のほか、様々なバックボーンをもって、多くの人が滞在・活動しています。こうした人々がタイムリーに必要な情報を取得して都心生活を楽しむとともに、柔軟で自分らしい時間を過ごし、活発化に活動することで、都心千代田らしい多様な交流のなかで、豊かな文化や価値が創造されていくよう、活動の障壁の少ないユニバーサルな環境を充実させていきます。



ICTと連動し、AI技術を活かした情報案内

都心における多言語対応

誰にもわかりやすい情報・サイン（ピクトグラム等）＋
柔軟な空間・施設、移動サービス等の利用（シェア）環境
（オープンスペース、オフィス、コミュニティサイクルなど）

▶ 福祉のまちづくりの概況とこれからの視点・論点（課題）

これまでのまちづくりで目指してきたこと（従来の目標）と主な取り組み・成果をふりかえり、これからのまちづくりの視点・論点をふまえ、主要課題を以下のようにとらえています。

● 従来の目標 ●

だれもが暮らしやすく、活動しやすいまちに

- 子どもや高齢者、障害者を含む全ての人にとって暮らしやすく、活動しやすいまちとしていく
- 高齢者も障害者も安心して住み続けられる住宅、だれもが安心して豊かな暮らしを送るための施設の整備を進めていく
- だれもが地域や社会に参加し、いきいきと暮らせる活動のしやすいまちづくりを進めていく

● まちづくりの主な取り組み・成果 ●

- (1) 交通バリアフリー基本構想に基づいて、まちのバリアフリー化を総合的に推進（鉄道駅及び駅周辺のバリアフリー化やバリアフリー歩行空間の整備、坂や高低差のある地域の開発事業と連携したバリアフリールート整備など）
- (2) 高齢者や障害者、子育て世代をはじめとする区民等のための地域福祉交通「風ぐるま」事業を運行し、利便性を向上
- (3) 千代田区福祉のまちづくりに係る共同住宅整備要綱や関連法・条例に基づき、全ての共同住宅のバリアフリー化を支援
- (4) 子育て世代の転入増加を踏まえ、保育定員の増加や子育て支援施設を充実
- (5) 高齢者や障害者のための住宅・施設の確保や在宅の生活を総合的に支援する高齢者総合サポートセンター、グループホーム、障害者福祉センター、就労支援施設等を整備



地形の高低差を克服するバリアフリールート

(写真)

バリアフリー歩行空間

(写真)

高齢者総合サポートセンター「かがやきプラザ」

従来の目標・取り組みをベースに、未来に向けて進化するまちづくり

● これからのまちづくりの視点・論点 ●

障壁のない多様な活動と交流環境

基本的な概念

ダイバーシティ
ユニバーサルデザイン
ヒューマンセントードデザイン

若い世代の

ファミリーのニーズ

子どもを産み育てる環境
子どもの成長を支える居場所

健康と

まちづくり

健康づくり、医療・介護の環境
気軽に身体を動かせる環境

多様性のなかの

安全確保

災害時の外国人や多くの
滞在者の安全確保・避難

【主要課題】

- ◇高齢者、障害者の暮らしやすいまちづくり
- ◇ひとを中心として考える都心の空間の再編・創出
- ◇多様な交流で多彩な力を活かす環境の創出

▶ まちづくりの目標

これからのまちづくりの視点・論点・主要課題をふまえて、「**多様性を活かすユニバーサルなまちづくり**」の目標を以下のように定めます。

目 標

**都心ならではの豊かな価値の創造にむけて、
ひと、まち、活動の多様性を活かすことを重視して、
ユニバーサルな環境を広げていく**

(作図中)
まちづくりのイメージ図

区全体の将来像 の展開イメージ	『つながる都心』 × 多様性を活かすユニバーサルなまちづくり
歴史・文化 がつながる	◇増加しているファミリー世帯や高齢化の進行など、まちの人口構成が変化しながらも、従来からまちや文化、祭りなどを支えている町会等のコミュニティや共助の力が継続している
ひと・まち・コミュニティ がつながる	◇誰もが歩きやすく、気軽に出かけたいくなるよう、まち・みちのバリアフリー化とともに、道路・公園等の公共空間や開発の中で、ひと中心の空間・機能のデザインが進んでいる
未来・世界 へとつながる	◇年齢・ライフステージ、ライフスタイル・ワークスタイル、国籍・信仰、価値観・指向性など、多様な背景の“違い”を持つひとが訪れ、つながって、まちの魅力・文化や、課題解決の新しい力を醸成している
あらゆる情報 でつながる	◇まちの様々なひと、活動、場所、機会などの多様な情報が蓄積され、多様な背景の“違い”を超えて、ひとの出会い、交流、価値観の共有に活かされ、多様で創造的な力をマッチングしている

▶ まちづくりの方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

まちづくりの目標を具体化し、効果的に取組みを進めていくため方針を以下のように定めます。

方針 1

だれもが社会に参加し、いきいきと暮らし、活動できる環境づくり

社会で活動するひとの多様性がまちの活力、魅力・価値創造につながるよう、外出がしやすく、楽しくするための基本的な歩行環境の充実を進めていきます

- 区施設・学校、病院・福祉関連施設などの公共・公益施設は、高齢者や障がい者を含めたすべての人が使いやすいよう整備し、誰もが利用しやすい場所への配置や機能の複合化等を進めていきます
- ★鉄道駅、駅とまちをつなぐルート、エリア回遊軸をはじめのまちの主要な歩行者空間のバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入、一息ついて休息できるスペースの創出などを進めていきます

方針 2

都心で活動するひとの多様性のなかで、障壁・境目を感じることなく活動できる環境づくり

都心に滞在するひとが多様なスタイルでつながり、自分らしく、いきいきと活動・活躍できる環境をデザインしていきます

- ★ファミリー、子ども、高齢者、障害者、外国人など、様々なライフスタイルやスキルを持つだれもが、地域で出会い、ともに活躍できる機会・コミュニティの力を育む「場所（＝プレイス）」を充実させていきます。
- ★企業や大学・研究機関やその研究者・学生、アーティスト、フリーランスなど、多様な人材がそれぞれの活動の価値を高め、交流を通じて創造的活動をまちに広げていく環境づくりを進めていきます。
- ★都心に暮らし、活動する人、訪れる人の多様性を踏まえ、都心生活・移動・活動を支えるまちの情報環境を充実させ、ひととまち、コミュニティがつながる環境を充実させていきます。
- ★多様な活動スタイル・ニーズにあわせて、柔軟に機能・空間・施設とサービス利用環境を充実させていきます。

方針 3

人生 100 年時代における、居住の継続、活発な活動を重視した環境醸成

子供の成長を応援し、高齢者が家庭や地域で長く、自分らしく暮らし続けられる環境を充実させていきます

- ★ファミリー、子ども、高齢者、障害者、外国人など、だれもが安心してまちに住み続けられるよう、多様なニーズにあわせて、適切に住宅を選択できる環境を充実させていきます。
（世代や家族形態の多様性、加齢やライフステージの変化に伴うニーズへの対応）
（多様なタイプの住宅供給、住宅のリフォーム・リノベーション、サービス付き高齢者住宅等の立地誘導など）
（住宅ストックと新規居住・住替えのニーズのマッチングなど）
- ★様々なライフスタイル・ワークスタイル、多様な世代・家族形態のニーズに合わせて、豊かな都心生活を支える福祉・保健・医療施設、教育・子育て支援施設、健康・スポーツ施設等を整備・充実させていきます